

三保海岸に打ち上がる深海魚ミズウオ

久保田 正・佐藤 武

駿河湾の三保にある羽衣の松付近の海岸を中心に広い範囲にわたり毎年冬春季には、深海魚のミズウオ (*Alepisaurus ferox*) が、春を告げるかのように生きて状態で打ち上がり、風物詩となっています。体長が約60~130cmの未成体(成体は最大200cm位)の個体が、毎年少なくとも100個体以上も打ち上がります。本種の三保海岸に打ち上がる瞬間の連続写真例は少なく、本篇では2009(平成21)年4月10日に海岸を散策中に得た個体を紹介します(図1~図6)。

当日の2日前(8日)には日本近海に低気圧の通過があり、この地域では強い西風が吹いて急深な地形と相まって「上昇流」により、本種が表層まで上昇し、明るい事にも驚いて戻ることが出来なくなり、さらに疲労も重なって波打ち際に寄せられて海岸に打ち上がったのです。

このような気象条件を、見定めて三保海岸の波打ち際を観察すれば生きている本種に遭遇することがあります。



図 1. 三保海岸でミズウオ発見:午後1時52分頃、晴れ、波浪・ウネリ階級1以下、南風5m/s



図 4. 体は波と平行になり、引き波により海岸に残される



図 2. 岸に寄せられる、体をくねらせて沖へ戻るような行動がみられる



図 5. 打ち上げ直後のミズウオ:体長105cm, 発見から約8分後



図 3. 打ち寄せる波により、徐々に波と平行になり砂礫浜へ寄せられる



図 6. 胃袋(上)とその内容物(下):イカ類の触腕部、サクラエビ、木の葉ほか